

添付資料 15 富山市斎場の利用に関する資料

1) 概要

火葬場内での葬送行為の状況を把握するため、火葬の受付開始時間から終了までの間とし、会葬者の入場から退場までの動きを観察するとともに、葬送行為の内容や人数を把握するため、一集団ごとに下記の内容について観察・記録を行った。

- ①会葬者集団の人数と構成
- ②入場から退場までの各部屋での動き
- ③それぞれの行為の所要時間
- ④会葬者の動線と場面ごとの状況
- ⑤葬列車両の構成

3) 調査日

本調査は、平成 27 年 5 月 14 日（木）に現地で実施し、葬列車両の状況及び会葬者の数を把握するため、5 月 1 日（金）から 5 月 31 日（日）の約 1 ヶ月間にわたり、斎場職員が集計を行った。

4) 火葬の予約方法と時間

斎場によって火葬時間が異なる。火葬日時は、あらかじめ電話で予約を行う。

富山市斎場及び北部斎場は、本庁市民課の他、各総合行政センター市民生活課（市民福祉課）で申し込みを行う。大沢野斎場は大沢野総合行政センター市民生活課、婦負斎場は婦中総合行政センター市民生活課の他、各総合行政センター市民生活課（市民福祉課）及び本庁市民課で申し込みが可能となっている。

また、富山市斎場には、法要等に利用可能な「会館」及び葬儀に利用可能な「式場」が併設されている。本庁市民課の他、各総合行政センター市民生活課（市民福祉課）で申し込みを行うことができる。

火葬時間

富山市斎場（合計受入可能数 22 件）

受入可能時間：9:00～15:00

午前：11 件 } 22 件（2 サイクル）
午後：11 件 }

北部斎場（合計受入可能数 10 件）

受入可能時間：9:00～15:00

午前：5 件 } 10 件（2 回転）
午後：5 件 }

大沢野斎場（合計受入可能数 4 件）

①11:30 ②13:00 ③14:30 ④16:00

※大沢野斎場のみ友引も火葬を行う

婦負斎場（合計受入可能数 6 件）

受入可能時間：9:00～14:30

午前：4 件まで } 1 日最大 6 件まで
午後：4 件まで }

5) 調査結果

①富山市斎場

富山市斎場には式場及び会館が設置されており、葬儀及び初七日法要等での利用は可能である。富山市斎場の調査当日の故人の性別、年齢と火葬受け時間を表 1 に示した。

表 1 富山市斎場の調査時の故人の性別、年齢と火葬受付時間

	葬家名	故人の性別、年齢	火葬受付時間
1	A家	男性（89歳）	11:00
2	B家	女性（92歳）	11:30
3	C家	男性（71歳）	11:30
4	D家	男性（52歳）	11:30
5	E家	男性（85歳）	11:30
6	F家	男性（83歳）	12:30
7	G家	女性（一歳）	13:00
8	H家	女性（97歳）	14:00
9	I家	女性（90歳）	14:30
10	J家	女性（64歳）	15:00

調査日当日は 10 件の火葬が行われた。火葬時間は 11:00 が 1 件、11:30 が 4 件、12:30 が 1 件、13:00 が 1 件、14:00 が 1 件、14:30 が 1 件、15:00 が 1 件であった。

性別は男性 5 名、女性 5 名で、年齢は 50 歳代が 1 名、60 歳代が 1 名、70 歳代が 1 名、80 歳代が 3 名、90 歳代が 3 名で、年齢が確認できなかったのが 1 名であった。

10 件とも富山市斎場での葬儀・告別式ではなく、別の会場で行ってからの火葬であった。

(1) 会葬者集団と葬列車両の構成

富山市斎場の調査時の告別・見送り時及び収骨時の各喪家の会葬者集団の構成と葬列車両の構成を表2に示した。

表 2 富山市斎場の調査時の告別・見送り時及び収骨時の会葬者集団と葬列車両の構成

	葬家名	会葬者集団の構成		葬列車両の構成	
		告別・見送り時	収骨時	告別・見送り時	収骨時
1	A家	会葬者 26 名、僧侶 1 名、計 27 名と葬儀社	会葬者 22 名、僧侶 1 名、計 23 名と葬儀社	リムジン型霊柩車 1 台、マイクロバス 1 台、乗用車 1 台	タクシー 1 台、乗用車 12 台
2	B家	会葬者 8 名、僧侶 1 名、計 9 名と葬儀社	葬儀社のみ（箱収骨）	リムジン型霊柩車 1 台、マイクロバス 1 台、乗用車 1 台	葬儀社のみ（箱収骨）
3	C家	会葬者 18 名、僧侶 3 名、計 21 名と葬儀社	会葬者 16 名、僧侶 2 名、計 18 名と葬儀社	洋型霊柩車 1 台、マイクロバス 1 台、乗用車 4 台	乗用車 6 台
4	D家	会葬者 23 名、僧侶 1 名、計 24 名と葬儀社	葬儀社のみ（箱収骨）	リムジン型霊柩車 1 台、マイクロバス 1 台、乗用車 1 台	葬儀社のみ（箱収骨）
5	E家	会葬者 38 名、僧侶 1 名、計 39 名と葬儀社	会葬者 38 名、僧侶 1 名、計 39 名と葬儀社	リムジン型霊柩車 1 台、マイクロバス 1 台、乗用車 1 台	タクシー 1 台、乗用車 19 台
6	F家	会葬者 16 名、僧侶 1 名、計 17 名と葬儀社	会葬者 16 名、僧侶 1 名、計 17 名	リムジン型霊柩車 1 台、マイクロバス 1 台、乗用車 9 台	マイクロバス 1 台、乗用車 2 台
7	G家	会葬者 22 名、僧侶 1 名、計 23 名と葬儀社	葬儀社のみ（箱収骨）	リムジン型霊柩車 1 台、マイクロバス 1 台、タクシー 1 台乗用車 2 台	葬儀社のみ（箱収骨）
8	H家	会葬者 12 名、僧侶 2 名、計 14 名と葬儀社	会葬者 12 名、僧侶 2 名、計 14 名と葬儀社	リムジン型霊柩車 1 台、乗用車 6 台	乗用車 7 台
9	I家	会葬者 16 名、僧侶 1 名、計 17 名と葬儀社	会葬者 16 名、僧侶 1 名、計 17 名と葬儀社	リムジン型霊柩車 1 台、乗用車 9 台	乗用車 5 台
10	J家	会葬者 7 名、僧侶 1 名、計 8 名と葬儀社	会葬者 7 名、僧侶 1 名、計 8 名（斎場待ち）	洋型霊柩車 1 台、乗用車 4 台	乗用車 4 台（斎場待ち）

ア. 会葬者の数

最も会葬者数が多かったのがE家で、会葬者 38 名であった。次いでA家の 26 名、D家が 23 名、G家が 22 名で、最も少ないのがJ家で 7 名であった。調査当日の会葬者数の平均は 18.6 名であった。僧侶が複数帯同されることもあり、僧侶を含めた平均は 19.9 名であった。

J家のみ斎場の会館棟のロビーで火葬終了まで待っていたが、他の会葬者は棺が火葬炉に納まるのを確認すると、葬儀式場へ移動する。約 2 時間後に収骨となるが、収骨時間になると遺族が斎場に再度訪れ収骨を行うが、葬儀式場のみ斎場に到着し、桐の箱に遺骨を納めて葬儀式場へ運ぶ「箱収骨」のケースもみられる。箱収骨の場合、葬儀式場で遺族が収骨を行うことになる。調査当日は 10 件の内 3 件が箱収骨であった。

収骨時の人数は、火葬時とほぼ同じ人数が来場する。

イ. 僧侶の帯同について

全ての喪家で僧侶を帯同した。僧侶が 1 名の場合が多いが、複数の僧侶を帯同したのは 2 喪家で、C家が 3 名、H家が 2 名であった。また収骨時も僧侶を帯同していた。

ウ. 葬列車両の状況

葬列車両の構成をみると、霊柩車を先頭にマイクロバス 1 台で到着するか、複数の乗用車で到着する。タクシーの利用は少ない。マイクロバスの利用があったのは 7 喪家であった。火葬予約が 14:00 以降の遅い時間帯の 3 喪家は乗用車のみでの到着であった。

J 家はそのまま斎場に残ったが、収骨時はマイクロバスの利用が少ない。マイクロバスの利用は収骨に訪れた 6 喪家の内 1 件しかなく、それ以外は乗用車での到着であった。そのため収骨時には乗用車の台数が多くなり、会葬者数が多かった E 家はタクシー 1 台と乗用車 19 台での来場であった。A 家もタクシー 1 台、乗用車 12 台で、他の喪家も乗用車数台での到着であった。また僧侶も自身で運転して来場していた。

霊柩車の種類をみると、リムジン型霊柩車の使用が 8 喪家、洋型霊柩車の使用が 2 喪家であった。宮型霊柩車や寝台型霊柩車の使用はみられなかった。

葬儀社社員も乗用車で斎場に到着するが、待合室の準備等が無いいため、早めに到着することはない。斎場の道路を挟んだ向かい側にある葬儀社の社員は徒歩で来場していた。

(2) 葬送行為の状況

富山市斎場の調査日の各会葬者集団における火葬場内での葬送行為の流れと時間を表 3 に示した。

表 3 富山市斎場の調査日の各会葬者集団における葬送行為と時間

葬送行為	A家	B家	C家	D家	E家	F家	G家	H家	I家	J家
火葬予約時間	11:00	11:30	11:30	11:30	11:30	12:30	13:00	14:00	14:30	15:00
①霊柩車が車寄せに停車した時刻	10:51	10:59	11:06	11:21	11:38	12:16	13:00	13:31	14:15	14:35
②会葬者の車がポーチ前に到着した時刻	10:52	11:03	11:06	11:21	11:39	12:16	13:00	13:32	14:17	14:35
③棺が告別室に安置された時刻	10:53	11:02	11:09	11:22	11:39	12:17	13:00	13:32	14:18	14:35
④最後の人が告別室に入場した時刻	10:53	11:03	11:08	11:22	11:40	12:18	13:02	13:33	14:19	14:37
⑤読経（お別れ）を始めた時刻	10:54	11:03	11:09	11:23	11:41	12:19	13:02	13:34	14:19	14:37
⑥読経（お別れ）が終了した時刻	10:56	11:06	11:13	11:25	11:46	12:22	13:08	13:37	14:23	14:40
⑦最後の人が炉前ホールに入場した時刻	10:57	11:06	11:15	11:26	11:47	12:23	13:09	13:38	14:25	14:41
⑧故人の顔（棺）の確認が終了した時刻	10:59	11:07	11:15	11:27	11:48	12:25	13:10	13:39	14:27	14:43
⑨火葬炉に棺を納めた時刻	11:00	11:08	11:16	11:28	11:49	12:25	13:10	13:40	14:28	14:43
⑩最後の人が炉前ホールを退室した時刻	11:01	11:09	11:17	11:29	11:50	12:27	13:12	13:41	14:29	14:45
⑪会葬者が火葬場から退出した時刻	11:03	11:10	11:18	11:32	11:52	12:29	13:14	13:42	14:37	14:45
⑫会館棟待合室に入った時刻（残った場合）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14:47
⑬炉の扉が開き焼骨を引き出した時刻	12:28	12:30	12:45	12:47	13:13	13:15	14:12	15:25	15:26	15:46
⑭骨受皿を整骨室に移した時刻	12:28	12:30	12:45	12:47	13:13	13:15	14:12	15:25	15:26	15:46
⑮焼骨を骨受皿からトレイに移し終えた時刻	12:29	12:31	12:47	12:51	13:15	13:19	14:15	15:26	15:28	15:48
⑯収骨トレイを収骨室に移し終えた時刻	12:30	12:33	13:07	13:09	13:43	14:13	14:47	15:27	16:10	15:55

⑰遺族または葬儀社が火葬場に到着した時刻	12:56	12:49	13:34	13:08	13:49	14:39	14:42	15:49	16:15	15:56
⑱遺族または葬儀社が収骨室に入室した時刻	12:57	12:49	13:36	13:09	13:50	14:41	14:47	15:50	16:17	15:57
⑲収骨を始めた時刻	12:59	箱 収 骨	13:36	箱 収 骨	13:54	14:42	箱 収 骨	15:51	16:19	16:04
⑳収骨を終えた時刻	13:05		13:42		13:58	14:44		15:54	16:22	16:09
㉑最後の人が収骨室を退室した時刻	13:06	12:52	13:43	13:13	14:01	14:48	14:49	15:55	16:25	16:09
㉒最後の人が車に乗り退場した時刻	13:08	12:52	13:45	13:14	14:07	14:51	14:50	15:59	16:30	16:12

到着から告別・見送り、待合、収骨、退場までの葬送行為は次のようになっている。

ア. 到着から告別・見送り

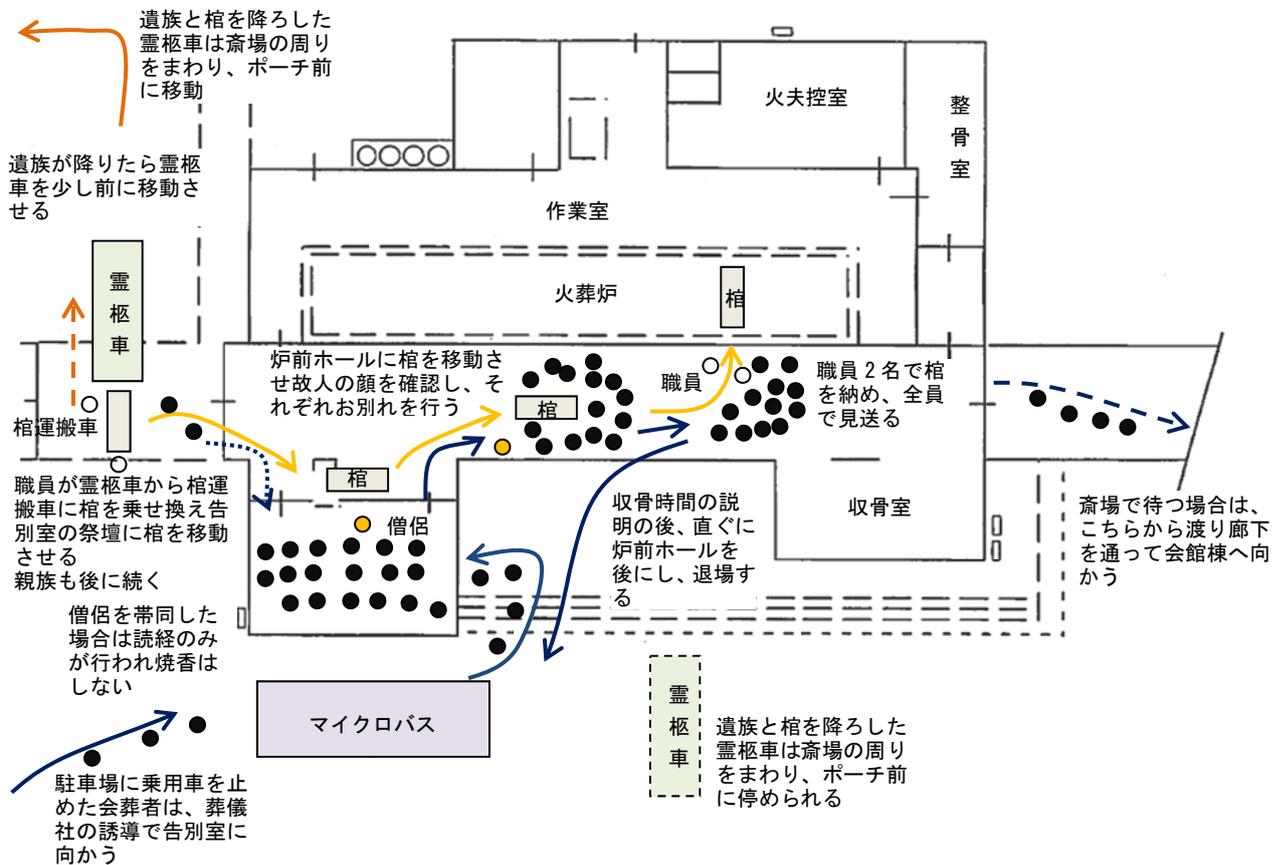


図 1 富山市斎場での到着から見送りまでの状況

炉前横の入口部分に棺運搬車を用意し、斎場への渡り廊下のピロティ部分で職員が待機する。ピロティに霊柩車が到着すると職員が出迎え、遺族は位牌、遺影、骨壺を持ち霊柩車から降りる。骨壺は職員に渡される。

霊柩車を少し前に移動させ、棺運搬車を霊柩車の後ろに移動させ、職員が棺を載せ替える。棺運搬車を告別室の祭壇部分に移動させる。遺族は告別室に入る。

一部のホイールベースが長い霊柩車の場合はスロープに車体が擦ってしまうため、逆向きに止められる。

マイクロバスで到着した場合は、火葬棟正面のポーチ前に停車させ、会葬者はポーチ側の入口から告別室に入る。

乗用車で到着した場合は、駐車場に車を止め、各々ポーチ側の入口から告別室に入る。棺覆いは外され、葬儀社に渡される。

僧侶を帯同する事が多く、祭壇（棺）を前に僧侶が読経を行う。焼香は行わない。

読経が終了すると、炉前ホールに棺を移動させる。会葬者全員が炉前ホールに移動する。

炉前ホールで棺の窓を開け、故人の顔を確認し、最後のお別れを行う。お別れが終了すると、火葬炉の化粧扉を開け、職員2名で火葬炉に棺を納める。遺族は遺影と位牌を持ち、その他の会葬者は合掌にて見送る。

職員が収骨時間の説明を行った後、直ぐに炉前ホールから退出する。骨壺は職員が預かるが、遺影、位牌は遺族がそのまま持ち帰る。

斎場に到着してから棺の見送りを終え斎場から退出するまで10分くらいである。

斎場で火葬終了まで待つケースは少なく、会葬者は斎場を後にして、車で葬儀式場に移動する。今回の調査では、斎場で待った会葬者は1件のみであった。



写真1 霊柩車の到着時の状況

写真2 職員が霊柩車から棺運搬車に棺を載替える



写真 3 告別室で祭壇(棺)を前に僧侶の読経

写真 4 職員が棺を火葬炉に納め全員で見送る

イ. 待合の状況

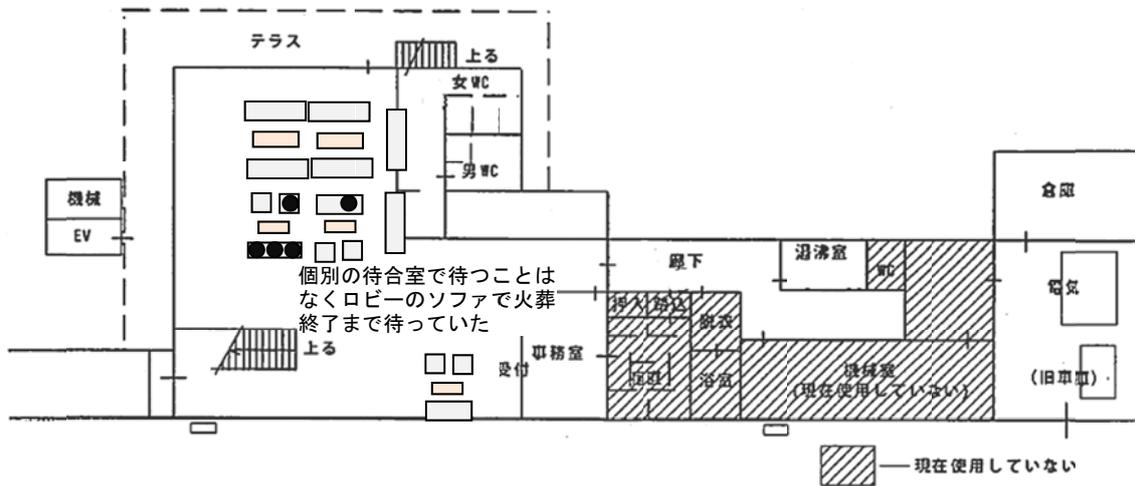


図 2 富山市斎場での待合の状況

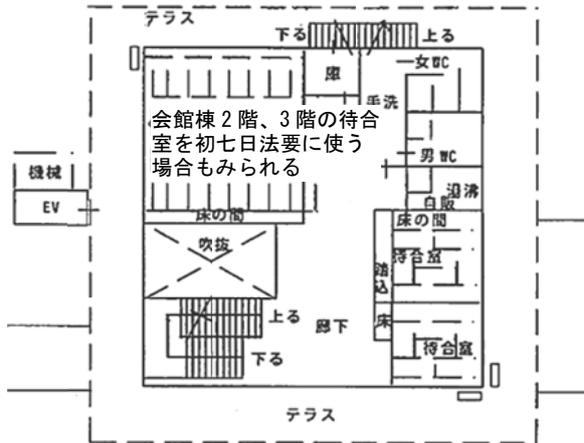


図 3 富山市斎場での会館棟 2 階部分

写真 5 待合に使われる会館棟の 1 階ロビー

平成 26 年度の統計で、富山市斎場利用者の会館の利用率は 9%であった。

斎場で待つケースは少なく、ほとんどの会葬者は棺が火葬炉に納まるのを確認すると、葬儀式場に戻ることになる。中には火葬中、会館棟の 2 階、3 階の待合室を利用して初七日法要を行うケースもみられる。

調査日の状況を見ると、会館棟で待合室を使った会葬者はみられなかったが、ソファが置かれた 1 階のロビーで待つ会葬者が 1 組みられた。

売店や自動販売機もないため、車で近くのコンビニまで飲み物と軽食を買いに行っていた。

予定された収骨時間まで待ちきれずに、案内がある前に火葬棟へ向かっていた。

ウ. 収骨の状況

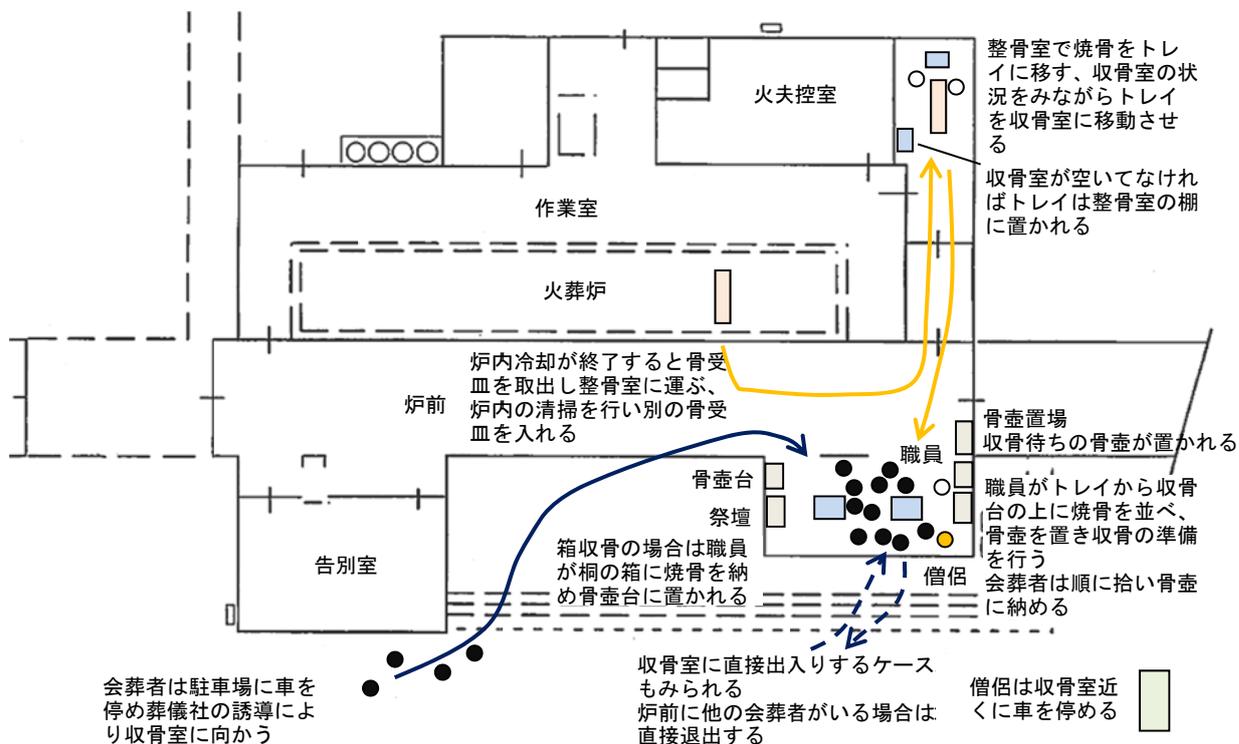


図 4 富山市斎場での収骨の状況

富山市斎場の収骨室は1室であるが、同時2組の収骨が可能ないように祭壇、収骨台が背合わせで2組置かれ、アコーデオンカーテンで仕切れるようになっているが、基本的には同時利用をさせないようにしている。

預かった骨壺は炉前奥の渡り廊下入口の骨壺置場に並べられる。

火葬が終わり、炉内冷却が終了すると、火葬炉の扉を開け、骨受皿を引き出し、整骨室に運ぶ。その際、遺族の立会いは無い。二人の職員が骨受皿からトレイに焼骨を移し、骨受皿の清掃を行う。トレイに移し終えた焼骨は収骨室に運び、トレイを収骨台に置く。職員は素手で作業を行う。

収骨台の中央に骨壺が置かれ、収骨の準備が行われる。故人の遺骨の証明として名札が置かれる。骨壺の中にはお香が入れられる。咽喉仏は職員が予め分骨容器に納めておく。収骨台が空いていなければ、焼骨はトレイのまま整骨室の棚に置かれる。

箱収骨の場合は、職員は葬儀社が用意した桐の箱に焼骨を並べる。

骨受皿が引き出されたら直ぐに他の職員が炉内清掃を行い、別の骨受皿を炉内に納め、次の火葬の準備を行う。会葬者がいない時間を見計らって手際よく行われる。

予め伝えた収骨時間になると、会葬者が到着し収骨室に向かう。火葬時と人数はほとんど変わらないが、マイクロバスを利用せず乗用車で到着が多くなっていった。僧侶も自身で運転してきていた。

会葬者はポーチから炉前を通り収骨室に向かうが、直接、収骨室に入る場合もみられた。

遺影は祭壇横の骨壺台に置かれる。

会葬者が揃うと僧侶の読経が始まり、職員の説明により、会葬者がはしで拾い骨壺に納める。終わると次の人にはしを渡し、順に行われる。遺族に確認し、最後は職員が素手で焼骨を骨壺に納める。最後にトレイの遺骨を全て骨壺に納める。火葬証明を喪主に渡し、骨壺を白布で覆い遺族に渡す。遺族は収骨室から直接退場する。収骨室が狭いため、会葬者が入りきれず炉前ホールに溢れていた喪家もみられた。

箱収骨の場合は、葬儀社のみが受取りに来る。焼骨が入った桐の箱と火葬証明を葬儀社に渡し、終了となる。箱収骨の場合は収骨の予定時間より早く葬儀社は到着していた。

収骨が終わると、次の収骨の準備が行われる。

収骨時間は火葬順となるが、調査当日は箱収骨や会葬者が斎場で待ったケースがあり、必ずしも火葬順にはなっていなかった。



写真 5 炉内冷却後に骨受皿を取出し整骨室に運ぶ

写真 6 整骨室で職員が焼骨を拾いトレイに移す



写真 7 収骨の準備が完了し会葬者の到着を待つ

写真 8 会葬者がそれぞれ拾い骨壺に納める



写真 9 箱収骨は職員がトレイから桐箱に納める 写真 10 葬儀社は焼骨が入った桐箱を引取りに来る

(3) 火葬の状況

富山市斎場の調査日の火葬の状況について表4に示した。

表4 富山市斎場の調査日の火葬の状況と時間

	A家	B家	C家	D家	E家	F家	G家	H家	I家	J家	平均
火葬予約時間	11:00	11:30	11:30	11:30	11:30	12:30	13:00	14:00	14:30	15:00	—
使用火葬炉	う号炉	え号炉	あ号炉	く号炉	か号炉	お号炉	き号炉	う号炉	え号炉	か号炉	—
性別	男	女	男	男	男	男	女	女	女	女	—
年齢	89歳	92歳	71歳	52歳	85歳	83歳	-歳	97歳	90歳	64歳	—
再燃バーナー点火	11:02	11:08	11:19	11:29	11:50	12:25	13:11	13:40	14:28	14:42	—
主燃バーナー点火	11:03	11:09	11:20	11:30	11:51	12:26	13:12	13:41	14:29	14:43	—
再燃バーナー消化	11:03	11:11	11:25	11:35	12:05	-	13:25	13:44	14:35	14:48	—
主燃バーナー消化	12:06	12:05	12:33	12:37	12:55	13:12	14:02	14:35	15:21	15:41	—
炉内冷却終了時間	12:28	12:30	12:45	12:47	13:13	13:15	14:12	15:25	15:26	15:46	—
火葬時間(分)	64	57	74	68	65	47	51	55	53	59	59.3
冷却時間(分)	22	15	12	10	28	3	10	50	5	5	16.0
冷却までの総時間(分)	84	72	86	78	93	50	61	105	58	64	75.1

・火葬時間の平均は59.3分で冷却時間の平均は16.0分、総時間の平均は75.1分であった。

調査当日は火葬炉11基に対して、10件の火葬であった。火葬炉の燃料は灯油で、炉形式はロストル式となっており、火葬炉前室の設置はない。

再燃バーナーを点火し直ぐに主燃バーナーを点火する。発煙がみられたり、再燃焼炉の温度が1000℃になると再燃バーナーを止めている。再燃バーナーを点火してから主燃バーナーを消火する火葬終了までの火葬時間の平均は59.3分であった。

全ての火葬炉を順番に使うのではなく、2回転させた火葬炉もあり、2回転目の方が火葬時間は短くなっていた。火葬時間はF家が最も短く47分、もっとも長かったのがC家で74分であった。炉内冷却時間の平均は16.0分であった。ほとんど冷却せずに炉前に出したり、H家のように50分と冷却時間が長かったケースもみられた。炉前の会葬者の状況や、収骨の準備のタイミングを見ながら炉前に骨受皿を出していたこともあり、冷却時間の大きな差がみられた。

再燃バーナー点火から炉内冷却終了までの総時間の平均は75.1分であったが、冷却時間が極端に長かったH家を除いた平均は71.8分であった。最も短いのがF家で50分、次いで短かったのがI家の58分で、最も長かったのがH家で105分であるが、これは冷却時間が極端に長かったものである。次に長かったのがE家の93分であった。

副葬品が多い場合などは、主燃焼炉バーナーを点火してから直ぐに発煙がみられるケースがあったが、風向きによっては黒煙が火葬棟ポーチ部分に棚引いており、その時間帯に会葬者が到着することもあるため、対策が必要といえる。



写真 11 富山市斎場の火葬炉

写真 12 富山市斎場の火葬初期の状況

(4) 葬送行為の経過時間

富山市斎場の調査日の各葬送行為の経過時間を表5に示した。

表 5 富山市斎場の調査日の各葬送行為の時間

葬送行為の時間	A家	B家	C家	D家	E家	F家	G家	H家	I家	J家	平均
告別時間(分)	2	3	4	2	5	3	6	3	4	3	3.5
炉前見送り時間(分)	3	2	4	2	2	2	2	2	3	2	2.4
炉前退場から収骨までの時間(分)	116	80	139	80	120	134	95	129	109	72	107.4
収骨時間(分)	6	-	6	-	4	2	-	3	3	5	4.1
到着から最後の退場時間(分)	137	113	156	113	149	155	90	158	135	97	130.3

※B家、D家、G家は箱収骨

・告別時間の平均時間は3.5分で、見送りの時間の平均は2.4分であった。

今回の調査では、全て僧侶を帯同し読経している。焼香が行われないにもかかわらず、告別時間が2分から6分と差が見られた。会葬者の人数よりも、僧侶の読経時間によるものと思われる。

棺が祭壇に安置されると、告別室が狭いため、読経のみが行われる。炉前で棺の窓を開け、故人の顔を確認し最後のお別れを行ってから、棺が火葬炉に納まるのを会葬者全員で

見送る。見送りの時間も短く 2 分から 4 分で終了している。会葬者全員が故人の顔を確認するが、見送り時間の長短は、会葬者の数とは関係なかった。

時間帯によっては、同時間帯での火葬受付の数が多いため、次から次へと会葬者が到着する。そのため、告別と見送り行為は簡潔に終わるようにしており、告別と見送り時間を合わせても 6 分程度であった。

・ 炉前退場から収骨までの平均時間は 107.4 分であった。

火葬中は斎場で待たない会葬者が多いため、収骨までの調整時間を多くとっている。箱収骨は職員が箱に納めた焼骨を葬儀社が引き取りにくるだけで、収骨予定時間よりも早めに葬儀社が来ることもあり、箱収骨の B 家は 80 分、D 家は 80 分、G 家は 95 分で平均より短い。

箱収骨を除いた平均は 117 分と、遺族に伝える収骨までの時間の 2 時間に近かったが、斎場で待った J 家の 72 分を含むもので、予定した収骨時間より遅めに斎場到着するケースが多かった。斎場で待っていた J 家は、予定の収骨時間まで待ちきれず、早めに火葬棟に移動してきたこともあり、前の喪家と収骨の順番が逆になっていた。

・ 収骨時間の平均は 4.1 分であった。

収骨時間は 2 分から 6 分で差がみられた。会葬者の数とは関係なく、会葬者がどこまで拾うか、収骨の状況によって違いがみられた。収骨全体の時間が短くなるようにと、最後は職員が手で拾い骨壺に納めている。

斎場に最初に到着してから、収骨を終えて退場するまでの平均時間は 130.3 分であった。箱収骨の 3 喪家を除くと 141.0 分となり、斎場で待たないケースが多く、収骨時間に余裕を持たせた案内をしているため、長めとなっている。

(5) 駐車場の状況

駐車スペースとして、斎場前に 13 台の乗用車分のラインが引かれている。収骨室前には 2 台分のバスの駐車スペースが用意されている。

斎場への到着は主にマイクロバスが利用されるが、収骨時は乗用車の利用が多くなっている。A 家が乗用車 12 台で到着したため、A 家だけで駐車スペースがいっぱいになってしまった。次の葬家が箱収骨であったため、今回は駐車スペースが不足することはなかったが、火葬時に乗用車の利用が多ければ、駐車スペースが完全に不足してしまう。

駐車区画が、前に車を止めると奥の車が出られないようになっており、後から来た会葬者と先に停めた会葬者とのトラブルもみられるという話であった。



写真 13 乗用車で到着が多い場合は駐車スペースがいっぱいになることもある